

令和4年度 第1回苫小牧市防犯のまちづくり懇話会
事前アンケート（質問・意見・要望事項）について

1 防犯カメラの設置、街路灯・防犯灯などについて

- ① 市内全体では、犯罪抑止として防犯カメラの設置を増やしてほしい。
- ② 市内東西を比べると西部地域の方が、圧倒的に街全体が暗く、国道沿いの路線バスを利用して通勤、通学している方が徒歩で帰宅する際の道は、ほとんど街路灯もなく、とても危険な状態。暗がりの道筋にはポイ捨ても多く、暗くて汚い印象は否めない。
街路灯に関しては、各町内会にお任せしている現状かと思うが、町内会として将来的に経費の掛かる事から、むやみに増やす事はできない。
西部地域全体を、もっと明るくする方法はないものか。

回 答

- ① 防犯カメラは、地域全体の見守り活動を補完する取組として、犯罪抑止に一定の効果があるものと考えております。
防犯カメラの設置につきましては、「防犯カメラ設置5カ年実施計画」に基づき、西部地域の公園について重点的に設置を進めることとしておりますが、地域の要望や犯罪状況を勘案し、1か所でも多く防犯カメラが設置できるよう庁内関係部局とも連携し、柔軟な対応に取り組んでまいりたいと考えております。
- ② 夜間における安全確保には、街路灯の設置や公園等維持管理業務において、防犯に配慮した樹木の剪定などが考えられます。
現在、市が街路灯を設置する幹線道路（主に幅員10m以上の市道）につきましては、水銀灯や照度が低くなった古いものから順次LED化を進めており、また、防犯の観点から街路樹の剪定を進めているところでございます。
また、生活道路への街路灯の設置、維持管理につきましては、基本的に町内会へお願いしておりますが、電気料金に対する全額補助を実施しているほか、街路灯のLED化に伴い、灯具不良の場合は市が取替えを行うなど、可能な限り町内会の負担軽減に努めているところでございます。
具体的な設置箇所に関しては、街路灯の明るさや人通りなどの状況を知る町内会の要望に基づき決定しておりますことを御理解願います。

2 「こどもSOSの家」ステッカーの購入制の導入等について

- ① 2009年ころに小学生を狙った犯罪や不審者が多件あったことから、青年会議所、市内小学校、町内会、警察、PTAなどと夏休み期間のパトロールを3週間行った。
事件の減少と共に、今後も繋がるべき方々とのコミュニケーションを図ることができたと感じている、参加者の負担は懸念されるが効果はある行動だと思う。
- ② 民家に貼ってある「こどもSOSの家」ステッカーについても効果は感じているが、今後のさらなる普及と比例していくとは言い切れない部分もあるかと。子ども達に対して「世の中そんなに悪い人ばかりではないのだよ」と説明しがたい現状にも問題があるかと思う。市民の方々にも当事者意識を持っていただき、相乗効果を図るためにもステッカーを購入制にし、与える安心感の効果の向上と安全なまちづくりへの意識を高め、取組に対する理解から郷土愛も育まれるのではないかと考えます。

回 答

- ① 町内会や青年会議所等地域における日常的な防犯活動は、犯罪を未然防止するうえで有効な活動と認識しております。昨年8月より、散歩やウォーキングなど日常生活の中で防犯の観点をもって子ども等を見守る活動として、防犯意識を持った地域の目を増やすことを目的に「ながら見守りタイ」を実施し、地域防犯活動の裾野拡大に努めているところでございます。
- ② 「こどもSOSの家」は、不審人物等から子ども達を守るために多くの商店や事業所及び個人宅に無償でご協力いただき、子ども達が救助を求めてきた場合に「保護」と「通報」をお願いする事業です。
掲示用のステッカーを購入制（有料）とした場合、今までご協力いただいていた皆様からの理解を得る必要や、新たに協力を検討いただく方々にとって負担増となること等から、導入は難しいものと考えております。
現在はホームページへの掲載や教育関係機関等との連携において周知を図っているところですが、今後さらなる普及を目指して取り組みを進めてまいりたいと考えております。

3 防犯見守りの環境整備について

子どもの防犯で見守りや付き添いの他に、基本的な爽やかな挨拶や通学路の見守りをしやすいように、ベンチ設置等ができたらいいと思う。

回 答

見守り活動では、天候や季節に関係なく通学路にお立ちになり大変な御苦勞をおかけしているものと認識しております。

ベンチの設置につきましては、道路管理者へ許認可の手続きや破損等の管理などが必要となることから難しいものと考えておりますので、御理解願います。

4 「犯罪被害にあう不安を感じる」犯罪（苫小牧市総合防犯計画 P13）

苫小牧市総合防犯計画策定における市民意識調査の結果における、「犯罪被害にあう不安を感じる犯罪」について、回答者の18.8%は「住宅への侵入犯」に不安を感じるという結果である。次いで「車上狙い」、「振り込め詐欺」と続く。

これらの犯罪に対する「防犯」は、市や警察、地域が対応するものでなく、各個人自ら、また各家庭で対策しなければならない類のものでしょう。日々の意識づけと正しい知識が必要。これには、わかりやすい啓発や教育が必要と考える。

これまでのように、警察による「防犯教室」と短絡的に依頼するのではなく、市の「053（ゼロごみ）大作戦」のように年間を通じて、市全体に取り組み、町内会や小中学校等との連携が必要と考える。

回 答

犯罪を防止するためには、「自分の安全は自分が守る」という意識づけが重要であると考えております。

これまでも、市のフェイスブックやLINE、町内会での交通安全教室の際にミニ防犯講座や、防犯だよりの発行、出前講座などで、身近に起こりうる犯罪の未然防止など、市民一人ひとりができる範囲での安全について、自らの意思で自らが守っていくための周知に向けた取組を進めておりますが、今後も関係機関と連携して多くの市民に広くわかりやすい啓発を行ってまいります。

5 防犯対策について

歩きスマホや自転車の無灯火、スマホを見ながらの運転を防犯パトロールでよく見かけるが、歩きスマホでは周りの状況が把握できず人等との衝突の危険がある。

また、スマホは外部との連絡手段であり、犯罪を行う人は連絡手段の一つであるスマホを狙っていると思う。自分の身は自分で守るという意味でも、歩きスマホはやめた方が防犯対策になると思う。

駅前の自転車駐輪場でも見守り活動をしているが、鍵がついたままの自転車や、鍵が壊れている自転車が見受けられる。活動の中で2つ鍵をつけるよう指導しているが、まだまだ防犯対策ができていないと思った。

回 答

夜間、帰宅途中の「ながら歩き」につきましては、周囲への注意力が低下し不審者の接近に気付にくくなることから、被害に遭う危険性が高くなります。

このことにつきましては、北海道警察本部や市のホームページ等において啓発を行っておりますが、さらなる注意喚起を図ってまいりたいと考えております。

また、自転車盗難の被害のあった自転車の多くは「無施錠」や「鍵を一つしかかけていない」と警察より指摘されています。

自転車の盗難被害の多発を受け、今年9月に苫小牧警察署と合同でJR苫小牧駅の駐輪場など3か所で啓発活動を展開し、無施錠の自転車約100台に注意点をチェックした荷札状のカードを取り付けたほか、鍵の2か所設置などをアピールするチラシと一緒に自転車用の鍵を手渡しました。

引き続き、北海道警察本部や市のホームページ、苫小牧市防犯協会で発行している「防犯だより」への掲載など啓発を継続してまいりたいと考えております。